

日本初演ミュージカルへの取り組み

—バーナード・J・テイラー作品を上演して—

日 高 真 帆

1. 二作の日本初演ミュージカル

—*Wuthering Heights* と *Pride and Prejudice*—

2016年2月、バーナード・J・テイラーによるミュージカル、*Wuthering Heights* (『嵐が丘]) が京都で幕を開けた。テイラー作品の日本初演である。本作は1992年に発表された作品であるが、2015年夏に改訂されたばかりであった。本公演は本邦初演であるだけでなく、この改訂版 *Wuthering Heights* の世界初演ともなる記念すべき公演であった (演出・総監督 日高真帆)。2016年2月2日にプレビュー、翌3日に本公演を実施した。¹

この公演は京都女子大学文学部英文学科主催によるプロダクション・ゼミ第3期生卒業公演でもある。² プロダクション・ゼミは2012年度に新カリキュラム下で始動したゼミであり、英語による卒業論文執筆に加えて、卒業制作として英語による演劇公演に取り組む実践的な演劇ゼミである。2013年1月の初公演以来、学内外からの来場者が年々増加してきたことを受け、2016年度からはプレビューも公開することとなった。このプレビューは、卒業制作の審査を行う卒業試問としての役割も担うもので、会場では一般来場者に加えて、主査で

1 2016年2月20日付『本願寺新報』では「学生たちが英語劇—1800面の字幕を作成 京都女子大一」と題した記事が掲載され、テイラー作 *Wuthering Heights* を日本で初演し、1800面に及ぶ日本語字幕と共に全編英語上演した様子が大きく取り上げられた。

2 プロダクション・ゼミでの取り組みについては拙稿「英語劇の上演と大学教育への応用」(京都女子大学英文学会『英文学論叢』第56号、pp.10-16)を参照。

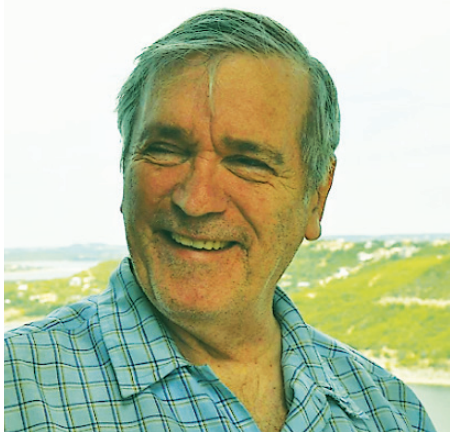
あるゼミ担当教員以外に卒業回生のゼミ生達の副査も舞台を見守る。

プロダクション・ゼミ初年度には第一期生である3回生のみ所属していたため、2013年1月23日に *Musical Theatre Concert 2013* を開催し、コンサート形式で複数のミュージカル作品から名曲を選び、原語である英語で披露した。2014年2月及び2015年2月には、*West Side Story* 全編を異なる演出で上演した。ミュージカル公演は毎回全編生演奏で上演しており、作中の全台詞及び歌詞の日本語字幕も付けている（監修 日高真帆）。学生達は登場人物やコーラスとして出演するばかりではなく、字幕制作やポスター・プログラム制作から音響・照明・舞台美術・衣装デザイン等に至る迄各自多様な役割を担い、協力し合う。

2015年春、新たな演目の模索中に白羽の矢が立ったのが、バーナード・J・テイラーによるミュージカル、*Wuthering Heights* であった。最大の決め手は彼の音楽の圧倒的な美しさに尽きる。こんなにも美しい作品がまだ日本では上演されていないとは、何としても初演を成功させなければ、という思いであった。作品は33曲のナンバーとカーテンコール用の1曲、そして間奏曲6曲という全40曲にも及ぶ曲から成る大作であり、上演時間は三時間近くに及ぶ。

そして翌2016年度、多才且つ多作なテイラーの作品を日本にもっと紹介したい、という情熱も手伝って、*Wuthering Heights* 以上に世界各国で上演されて来た彼の *Pride and Prejudice* の上演を決めた。やはり33曲から成る大作である。公演日は2017年2月3日（プレビュー）、4日（本公演）—今回も本作の本邦初演となる。本作は1997年の初演以来、イギリス、アメリカ、オーストラリア、アイルランド、ニュージーランド、ドイツ、ブラジル等で上演を重ねてきた作品であり、本京都公演は第43回目の公演となる。

2. バーナード・J・テイラー —劇作家として、作曲家として—



バーナード・J・テイラー（1944～）は、ミュージカル *Wuthering Heights* や *Pride and Prejudice* を始めとして、多くのミュージカルの作曲及び脚本制作を手掛けて来た劇作家・作曲家である。2013年にはその功績を称えられ、ロンドンの Victoria College of Music and Drama より名誉フェローの称号を授与されている。

エミリー・ブロンテ（1818～1848）原作の小説『嵐が丘』（1847）は、これまで映画化は勿論のことミュージカル化も複数回されて来たが、中でもバーナード・J・テイラーによるミュージカル化作品 *Wuthering Heights* は原作の真髓を捉えた翻案作品としてイギリスのブロンテ協会からも支持を得た名作であり、1992年に発表されて以来、イギリス、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ諸国等で上演を重ねて来た。

以下は *Wuthering Heights* 日本初演に寄せられた作家の言葉と、実際の舞台公演の写真である。

I am thrilled that you will be doing the Japanese premiere of *Wuthering Heights*. While I have had more than 100 productions of my shows around the world, this will be the first production of my work in Japan. I hope there will be more to come. I look forward to hearing about its reception. I wish I could be there to see it.

(拙訳：この度、『嵐が丘』を日本で初演されるとのこと、胸を躍らせております。私の作品はこれまで世界中で100回以上公演されてきましたが、日本で公演されるのは今回が初めてです。今後益々上演されますようお願いしております。日本での反響について伺えるのを楽しみにしています。今回の日本初演を私自身も是非鑑賞したかったです。)

今回上演する *Pride and Prejudice* もまた、イギリスの女流作家による傑作小説を原作としている。ジェイン・オースティン（1775～1817）原作による『高



第一幕第十一場より



第二幕第九場より



第二幕第七場より

『高慢と偏見』(1813)を基にした本作は、*Wuthering Heights*とは対照的にコミカルな場面に溢れ、音楽も軽快な曲が多い。プロダクション・ゼミでは重厚な作品の上演が続いていたが、今回初めて喜劇的趣向溢れる演目に取り組むことになる。以下は本作の日本初演に寄せられた作家の言葉である。

It is very gratifying for me that you are putting on *Pride and Prejudice* after putting on *Wuthering Heights* last year. I hope you will see more of my shows in Japan. *Pride and Prejudice* is one of the most popular English classic novels and has been made into numerous films and series. The Kyoto production is the 43rd international production of this particular show. My musical adaptation of the Jane Austen classic has been endorsed by the Jane Austen Societies in both England and Australia. I'm looking forward to hearing how the production was received and to seeing photographs.

(拙訳：昨年の『嵐が丘』上演に引き続き、『高慢と偏見』を上演して頂き大変嬉しく存じます。私の他の作品も今後益々日本で上演されますようお願いしております。『高慢と偏見』は英文学古典小説の中でも特に人気の高い

作品であり、多くの映画化作品やテレビドラマ化作品が作られて来ました。今回の京都公演はミュージカル『高慢と偏見』の第43回目の国際公演となります。ジェイン・オースティンによる古典をミュージカル化した本作は、イギリス及びオーストラリアのジェイン・オースティン協会からも支持を得ています。公演への反響を伺い、公演写真を拝見できるのを楽しみにしています。)

来年度は、*Wuthering Heights* 初演にコーラスとして出演した二年次生達が早くも卒業生となる。彼女達の間では既に卒業公演では是非自分達の手で *Wuthering Heights* の再演を、との声が高まり、感動の名作を新演出で再演する予定である。

3. 日本初演公演の意義

—大学から世界へ—

学生達の卒業制作の成果発表の場として始まったプロダクション・ゼミのミュージカル公演ではあるが、初年度から公演を学外にも公開して来たことで、一般公開する責任としてコンサートや演劇公演としての意義についても考慮して来た。そうしてみると、確かに *West Side Story* のような名作ミュージカルは音楽的にも脚本としても大いに取り組み甲斐はあるものの、余りにも有名なため多くの観客は映画や舞台公演の鑑賞経験があり、それらのイメージを念頭に鑑賞されることも少なくない。また、舞台制作に取り組む学生達も映画や舞台公演を参照できる状況にある。

それとは対照的に、テイラー作 *Wuthering Heights* のように日本でほぼ全く知られておらず、テイラーによるミュージカル作品の映画化作品も舞台公演の録画も殆どない状況にあっては、制作側も直接的な資料としては脚本と楽譜を中心に正に白紙で舞台制作に臨むことになり、観客も先行する映画や舞台のイメージなしに鑑賞できるという違いがある。更に、日本初演公演を通して、知

られざる名作を日本に紹介することができるのである。

勿論前者のようによく知られた作品を上演することにも良い面は多々あり、決して否定的に捉えている訳ではない。唯、初演作品の場合、アプローチ自体が異なり、新たに挑戦できる面が加わる。情報過多の時代にあって参考資料が殆どないという状況は、当初学生達の間には不安を引き起こしたようであったが、一から舞台制作に取り組むことを通してこそ演劇の醍醐味を体感して欲しいという思いで取り組んで来た結果、公演を終える頃には「この作品に取り組めて良かった」という声が口々に聞かれるようになった。このような新たな挑戦を日々積み重ねることでゼミにも新しい道ができ、二年連続での初演作品の上演に繋がった。

大学での教育活動の一環として演劇公演を行うことには、設備や予算やリハーサル時間の確保等ハードルも多いが、一方で興行収入や出演料の心配等、一般の現場での厳しい現実的課題からは解放されている。そのため、ある意味で純粹に上演すべき作品を選択できる自由があると言える。更に、本学科では学生全員が英語で卒業論文の執筆に取り組むことから、上演作品と卒業論文執筆を直結させた卒業研究も生まれることになる。それはまた、出演者の役作りや音響・照明・舞台美術・衣装等の効果の分析やデザイン・制作に資するものともなる。このような大学教育ならではの特質を生かし、今後も知られざる名作の発掘や紹介にも積極的に取り組み続けることで、大学での演劇制作の現場からこそ世界に向けて発信していけるものが生み出されるのではないだろうか。

謝 辞

本稿執筆に当たり、バーナード・J・テイラー氏から資料のご提供、ご協力を賜りました。また、公演写真はヤスダ写真館様に撮影をご担当頂きました。出演者は写真左方より岩科杏奈さん、田中美朱紀さん、山下香織さん、稲辺みどりさん、伊澤沙羅さん、河畑朋佳さんです。ご協力有難うございました。

参考資料

- Taylor, Bernard J. *Pride and Prejudice*. Libretto. www.bernardjtaylor.com, 1994-2006. Print.
- . *Wuthering Heights*. Libretto. Horsham, West Sussex: Stagescripts, 1990. Print.
- . *Bernard J. Taylor's Pride and Prejudice: A Musical Based on the Novel by Jane Austen*. Dress Circle, 1994. CD.
- . *Wuthering Heights: The Musical*. Silva Screen Records, 2003. CD.
- Musical Theatre Concert* 2013. Dir. and Piano. Maho Hidaka. Bunchu Hall, Kyoto. 23 Jan. 2013. Concert.
- West Side Story*. By Arthur Laurents, Leonard Bernstein, Stephen Sondheim, and Jerome Robbins. Dir. and Piano. Maho Hidaka. Bunchu Hall, Kyoto. 3 Feb. 2014. Performance.
- West Side Story*. By Arthur Laurents, Leonard Bernstein, Stephen Sondheim, and Jerome Robbins. Dir. and Piano. Maho Hidaka. Bunchu Hall, Kyoto. 4 Feb. 2015. Performance.
- Wuthering Heights*. By Bernard J. Taylor. Dir. and Piano. Maho Hidaka. Bunchu Hall, Kyoto. 2, 3 Feb. 2016. Performance.